

目 次

言語生活の学 本篇	1
序 説	3
第一章 呼びかけ	6
第二章 あいさつ ～ 生活の中の「あいさつ」	8
A あいさつことば	9
第一節 家庭内で	10
第二節 親戚間で	11
第三節 村落社会はまさにあいさつ社会	12
B あいさつことば研究	13
第一節 あいさつことば研究の旅	13
第二節 別途の方法でおこなった「あいさつことば」 調査	18
第三章 文表現の文末決定性	19
付 文末決定性にもとづく文表現長大化を防ぐのには	21

第四章 文末詞の世界	22
第一節 文末詞認識	22
第二節 私の文末詞研究 (既発表)	24
第三節 文末詞の繁栄	25
第五章 造語〈語形成〉	27
第一節 一音節語	27
第二節 語の文的形成	28
第三節 発想の妙	34
第六章 抑揚	36
第七章 文アクセント	38
第八章 文表現	42
第一節 主部〈形成・受容〉	42
第二節 述部〈形成・受容〉	43
第三節 句読点	44
第九章 文章表現	46
第一節 造「文章」	47
第二節 文章の受容 (読「文章」)	47

第三節 文章としての短詩形⇒〔「歌・俳」の文章〕	48
第十章 朗読	49
むすび	50
言語生活の学 続篇	51
情緒	53
反復	54
情と理と	56
動詞	59
修飾語詞	63
命令表現	66
子どもの表現力	67
言語生活の学 結語	69
あとかき	75

第一章 呼びかけ

これこそは、私どもの『言語生活の学』の初頭にくる話題〈研究テーマ〉ではなかろうか。

現代日本語の諸方言状況の中では、「オイ。」「コラ。」とかの呼びかけことばが、ほぼ普遍的であろう。この点、多少ともぞんざいなものに対しては、「ネー」「ナー」などの類がある。

呼びかけことばは、待遇感情の露出がつよい。いきおい、簡潔な高品位ならざるものが出てきやすくもある。(英語表現での“You know”“You see”などは、どの程度の品位のものであろう。)

「ネー」とか「ナー」とかの類は、現代日本語の口頭語界で、もっとも普遍的なもの的一种であろう。

「あなた」とかになると、これは高品位の呼びかけとされよう。さて、「オマイ」との呼びかけことばはあるのだろうか。——あっても、頻度は低いものではないか。

「アナタ」と「オマイ」とを比較すると、一方は〔ta〕でおわり、一方は「イ」〔i〕でおわる。「呼びかけ」という訴えことばが、〔a〕母音ではなく〔i〕母音でおわっては、訴えの声、まるで変わってくる。聞こえの小さい「イ」〔i〕の「オマイ」のおこなわれる頻度が少であるのは当然である。

ここでとりたてべき特異な一呼びかけことばに、「モーシ」「モシ」がある。私は、少年の時、郷里で、人中で細君がその夫君を呼ぶ時、「モーシー」と呼ぶのをよく聞いた。子どもながらにきれいな呼びかただと思った。‘あれ、いいな。’とも思った。この言いかたをするおばさんが好きでもあった。

「モーシ」・「モシ」に対して、「ナモシ」や「ノモシ」がある。これらの、呼

びかけことばとして用いられるところは、ごくすくないであろう。おこなわれてもその頻度は少なのではないか。

ところで東北地方に行くと、

○ア^フッシ〔i〕。

などの呼びかけことばがよく聞かれる。関西出身の私などには、これが、聞くだにころよいものであった。ものは、「あのモシ。」であろうか。「ア^フッス〔i〕。」などともあって、「もし。」ことばがはいっているのかいないのかわからないほどでもあるが、要するに最後のこのつけそえことばが、いかにも「もし」的で、聞くだにころよい。

「オイ。」「コラ。」などから「もし」の「シ」「ス」まで、わが国土上に種々の呼びかけことばができていよう。